

高い技術が求められる頭蓋底腫瘍手術 道内でも数少ない専門センター開設



社会医療法人医仁会
中村記念病院
副院長
瀬尾善宣

道内では珍しい、頭蓋底腫瘍の手術をする頭蓋底外科センターを開設しています。頭蓋底腫瘍とは、主に髄膜腫、神経鞘腫など脳の深部に発生する腫瘍で、ほとんどが良性です。ゆっくりと進行するため、症状がないのが特徴ですが、症状が出始めると急速に進行し、放置しておくと死に至ることもあります。

髄膜腫は、頭蓋骨の内側にある硬膜から発生する腫瘍で、脳を外側から圧迫し、もの忘れなど認知症のような症状や歩きづらい症状が出ることもあります。髄膜腫が原因の認知症は、手術で腫瘍を摘出することで改善されます。

神経鞘腫は、神経を包む鞘から発生する腫瘍で、最も多いのが聴神経です。耳の聴こえが悪くなって耳鼻科で突発性難聴の治療をしても改善されない場合、聴神経鞘腫だったということもあり、MRIやCTによる画像検査で判明する病気です。

治療は主に手術で腫瘍を摘出しますが、頭蓋骨には多くの重要な神経組織、血管などが集結しているため、高い技術が求められます。当センターでは、特殊な技術を習得した専門医が顕微鏡、内視鏡、ガンマナイフなどの最新機器を活用しながら手術を提供。年間約30件の実績ほか、顔面神経麻痺が残ったケースはほぼ0%、聴力温存率はほぼ50%となっています。

症状がなく予防が難しいため、頭痛、めまい、顔のしびれ、難聴などで治療が進まない場合は、画像検査を受けることをお勧めします。